

次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

この部分は著作権の都合により公表できません

(出典：『毎日新聞』(社説) 2025 年 4 月 3 日付け)

- 問 1. 上の文章を 200 字以内で要約しなさい。
- 問 2. 下線部①について、あなたは地域に根ざした大学像をどのように描くか、600 字以内で書きなさい。

2026 年度宮城学院女子大学編入学試験

現代ビジネス学部現代ビジネス学科 小論文 解答例・出題意図

◎解答例

問1.

解答例：

少子化により大学進学者が減少する中、大学の再編や設置審査の厳格化が進められている。特に地方の私立大学は定員割れが深刻で、自治体による公立化が進む一方、安易な対応は避けるべきとされる。教育機会の地域格差を防ぐため、大学同士の連携や地域人材育成への関係者の参画が重要である。多様な学生確保や教育の質向上も課題であり、誰もが高等教育を受けられる体制の整備が求められている。(185 字)

問2.

解答例：

地域に根差した大学とは、単に地理的にその地域に存在するだけでなく、地域社会の発展に積極的に関与し、共に成長していく存在であるべきだと私は考える。具体的に以下の三つの視点から描きたい。

まず、教育面では、地域の歴史や文化、産業に関するカリキュラムを取り入れ、学生が自らの学びを地域に活かせるような教育を行うべきである。例えば、地元企業でのインターンシップや、地域住民との対話を通じたフィールドワークは、学生に実践的な知識と当事者意識を育む好機となる。また、卒業後に地域で働くことを志す学生を育てることは、地域の担い手を増やすことにもつながる。

次に、研究活動においても、地域固有の課題に焦点を当てることが重要である。少子高齢化、過疎化、環境問題など、地域が抱える問題に対し、学際的な知見を活かした実践的な研究を展開することで、社会的意義の高い成果が生まれる。そしてその成果を地域に還元することで、大学は地域からの信頼と期待を得ることができる。

さらに、大学は地域の「開かれた空間」としての役割も果たすべきである。公開講座や生涯学習の場を提供することで、地域住民が主体的に学び続ける環境を整える。災害時には避難所や情報拠点として機能することもでき、地域の安心と安全にも貢献する。

このように、大学と地域が相互に学び合い、支え合う関係を築くことこそ、これからの高等教育の重要な方向性だと考える。(590 字)

◎ 出題意図

すでに2年以上の大学生活を送ってきた受験生に対し、今後の地域振興と大学教育の在り方について考えさせることを目的として出題した。